



大手拓次詩集

神保光太郎編

西脇順三郎・浅野晃・神保光太郎／監修

青春の詩集 ⑫

大手拓次詩集

© 1965

昭和40年10月1日 第1刷発行

昭和46年12月20日 第4刷発行

著作者 大手拓次

編者 神保光太郎

発行者 高橋謙

発行所 株式会社 白鳳社

東京都千代田区神田神保町1-20

振替口座番号・東京92241番

電話・東京291-8365番

落丁・乱丁本はお取り替えます。 大文堂印刷・和田製本

0392-1112-6906

大手おお拓た次く詩集じ

神保じん光ぼ太こう郎た編ろう

大手拓次詩集

神保光太郎編



西脇順三郎・浅野晃・神保光太郎／監修
青春の詩集 ⑫

白 凰 社

目次

『藍色の墓』

陶器の鴉

藍色の墓

陶器の鴉

黄金の闇

象よ歩め

枯木の馬

のびてゆく不具

やけた鍵

美の遊行者

秋

三

四

四

五

五

六

七

八

九

二〇

二一

裸体の森

罪の拝跪

つんぼの犬

野の羊へ

憂はわたしを護る

河原の沙のなから

球形の鬼

木立の相

創造の草笛

球形の鬼

くちなし色の車

三

三

四

四

五

五

七

七

八

九

二〇

春のかなしみ

生きたる過去

銀の足鐙

躁忙

耳のうしろの野

笛をふく墓鬼

あをい狐

老人

白い髻をはやした蟹

みどり色の蛇

名もしらない女へ

湿気の小馬

黄色い馬

朱の揺椅子

法性のみち

金属の耳

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

日輪草

足をみがく男

夜会

怪物

めくらの蛙

つめたい春の憂鬱

ヒヤシンスの唄

ジャスミンのゆめ

湿気の小馬

森のうへの坊さん

草の葉を追ひかける眼

黄色い帽子の蛇

蛙の夜

無言の顔

水草の手

手の色の相

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

香料の顔寄せ

月下香 (Tuberense) の香料

ベルガモットの香料

ナルシサスの香料

鈴蘭の香料

香料のをどり

すみれの葉の香料

仏蘭西薔薇の香料

香料の墓場

Wistaria の香料

香料の顔寄せ

白い狼

湖上をわたる狐

灰色の蝦蟇

舞ひあがる犬

𠄎

𠄎

𠄎

𠄎

𠄎

𠄎

𠄎

𠄎

𠄎

𠄎

𠄎

𠄎

𠄎

𠄎

𠄎

𠄎

青狐

林檎料理

まるい鳥

白い狼

盲目の鴉

鏡にうつる裸体

木製の人魚

をとめの顔

わかれることの寂しさ

わらひのひらめき

夏の夜の薔薇

洋装した十六の娘

恋

山のうへをゆくこゑ

窓をあけてください

十四のをとめ

𠄎

𠄎

𠄎

𠄎

𠄎

𠄎

𠄎

𠄎

𠄎

𠄎

𠄎

𠄎

𠄎

𠄎

𠄎

𠄎

𠄎

月の麗貌

三

足

一六

みどりの薔薇

三

秋

一九

まぼろしの薔薇

三

遠い枝枝のなかに

二〇

うしろをむいた薔薇

六

思ひ出はすてられた舞踏靴

二〇

薔薇のものけ

九

あなたの一言にぬれて

二三

手をのばす薔薇

九

恋人を抱く空想

二三

ばらのあしおと

一〇

あなたのこと

二四

薔薇の誘惑

一〇

盲目の宝石商人

二五

ひびきのなかに住む薔薇よ

一三

苔から苔へあるいてゆく人

二七

なやめる薔薇

一四

馬にゆられて

二七

さびしい恋

一五

十六歳の少年の顔

二八

かなしみ

一五

季節の色

二九

わかれ

一六

四月の日

三〇

風のなかに巣をくふ小鳥

一七

しろいものにあこがれる

三三

風のなかに巣をくふ小鳥

一七

夢をうむ五月

三三

苔から苔へあるいてゆく人

三四

六月の雨

三三

おまへの息

三三

卵の月

三三

青い吹雪がふかうとも

三四

黄色い接吻

三六

みづのほとりの姿

三四

夜の時

三六

ふりつづく思ひ

三四

黄色い接吻

三六

朝の波

三四

ひとすぢの髪

三六

白い階段

三四

死は羽団扇のやうに

三六

青青とよみがへる

三四

夜の脣

三六

日はうつる

三四

お前の耳は新月

三六

しろい火の姿

三四

齒

三六

月にぬれた鳥

三四

髪

三六

とちた眼に

三四

夕暮の会話

三六

みづいろの風よ

三四

あをい馬

三六

雪色の薔薇

三四

うつくしい脣

三六

みづのほとりの姿

三四

謎のやうな

三六

そよぐ幻影

三四

落葉のやうに

三六

『蛇の花嫁』

相見ざる日

ゆめ

胸をしめつくる悲しみ

夜毎に汝が健康を祈る

さびしさ

一五

一六

一七

一八

一九

二〇

真実

汝がこゑをきくことに

詩人の生涯（神保光太郎）

鑑賞ノート（宮沢章二）

年譜

索引

一六

一七

一八

一九

二〇

二一

大手拓次詩集

一、本集の本文については、次の方針に従って編集した。

- (1) 当用字体を有する漢字は、当用字体を使用した。
- (2) かなづかいは原詩のままとした。したがって、ルビ（振りがな）は旧かなづかひによった。
- (3) ルビは、底本に振ってあるもの以外は、編者の責任において付した。

一、詩句については、アルス版『藍色の囊』（昭和十一年刊）ならびに龍星閣版『蛇の花嫁』（昭和十五年刊）をそれぞれ底本とした。ただし、明らかな誤りは訂正した。

藍
色
の
墓

陶器の鴉

藍色の暮

森の宝庫の寝間に

藍色の暮は黄色い息をはいて

陰湿の暗い暖炉のなかにひとつの絵模様をかく。

太陽の隠し子のやうにひよわの少年は

美しい葡萄のやうな眼をもつて、

行くよ、行くよ、いさましげに、

空想の獵人はやはらかいカンガルウの編靴に。

陶器の鴉

陶器製のあをい鴉からい

なめらかな母韻ははうんをつつんでおそひくるあをがらす、

うまれたままの暖かさでお前はよろよろする。

嘴くちばしの大きい、眼めのおほきい、わるだくみのありさうな青鴉あをからす

この日和ひよりのしづかさを食べろ。

黄金の闇

南みなみがふいて

鳩はとの胸が光りにふるへ、

わたしの頭あたまは醸かほされた酒のやうに黴かびの花をはねのける。